

～昨日の風 明日の風～
**経営コンサルタント
 独白録**

[第74回] 世代間格差の壁



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、株経営改善支援センター（福岡市、URL <http://sien.co.jp/>）代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家として、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短時間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

ある日、若い女性の方から「時代変化がよくわからない」という質問を受けました。研修などで時代変化に対応できる組織作りをテーマに話をするのですが、その肝心の「時代変化の意味」がわからないと言うのです。若い世代なので我々が感じる時代変化とは時間のサイクルが違い、意味が伝わりにくいのでしょうか。

例えば、iPhoneというスマートフォンが発売されて今年で12年、iPadというタブレットが発売されて10年になります。たかだか10年ほどの期間なのですが、それ以前とそれ以後では随分と世の中の様子が変わりました。

最近ではどこのご家庭にも、ひょっとすると事業所にも「辞書」が置かれていません。わからない漢字や言葉の意味は、スマホを触ると瞬時に答えが出てくるのです。百科事典も全く売れなくなったと言う話を聞きます。こうした風景は、ひとつ前の世代からすると時代変化と思えるのですが、若い世代は最初からそうした環境にいるので変化として捉えていません。ある意味、価値観の相違と言って良いのかもしれませんが。

現代風景のリアル

少し困った私はこんな話をしました。

「父親がタバコを吸わず、自宅に仏壇がなく、なおかつ自宅がオール電化であった場合、そこで生まれ育った子は【火】を見るという機会がほとんどない、と言う風景は想像できるだろうか？」
 「そういう子供は、マッチを擦ることができない。ライターをつけることができない、と言う姿を想像できるだろうか？」
 「だから一時期小学校4年の理科の実験の最初は、マッチの擦り方から教えていたと言うのは知っているだろうか？」
 「最近ではアルコールランプは危険なので、水を沸騰させる実験にIHを使っているという話を知っているだろうか？」

「【火】を扱えるということが、人類の発展の中で大きな役割を果たしてきたのだが、その【火】そのものを見たことがない子供たちが出現している、と言うのは時代変化だ」

苦し紛れに、そんな説明をしたのですが、若い

女性が納得した様子はありませんでした。

「先生が魚の絵を描きなさいと幼稚園児に言ったら、魚の切り身の絵をかいたそう。水の中を動く魚を見たことのない子供たちがいるらしい」「ジャガイモやタマネギは、リンゴと同じように木にぶら下がっていると思っている子供たちも少なくならしい」

そこまで話しても、若い女性は納得をしてくれなかった。

価値観の共有喪失

一般的な企業組織は、18歳から65歳の世代で構成されます。世代で言えば3世代に相当します。祖父母、父母、子供という距離感の中で、価値観の共有をすることが難しい時代になりました。何よりも「働き方改革」による公的な機関が進める「勤労阻害制度」により労働そのものが意味を変え始めています。「仕事報酬」という働く喜びや「所属報酬」という仲間とともに目的や目標を達成する喜びが社会の中から消え始めています。リアルな世界の出来事よりも、ネットやウェブの中に真実があると考える世代が間違いなく出現しています。世代間格差の壁は日に日に強くなっているようです。若い人たちの教育をどのように行うかは今後の企業生命を左右するものになるかもしれません。

価値観の再構築

来たる10月18日に、帝国データバンクと共催で「組織活性化活動」に関するセミナーを福岡市で開催します。5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）は、組織の生産性を高める活動ですが、その根底には本稿で述べたような組織内の価値観共有という大きな目的が含まれています。【意識の統一～感性の統一～価値観の共有】という組織改善プロセスについて豊富な事例をもとに詳細に解説します。多くの経営者、経営幹部の方々の参加をお待ちしております。（詳細につきましては、弊社ホームページ又は帝国データバンク 福岡支店にお問い合わせ下さい）